

高齢者のスキントラブルへの対処

～創傷治癒理論に基づいた新しいケア方法



水原章浩 著 (医療法人三和会東鷲宮病院院長／循環器・血管外科／褥瘡・創傷ケアセンター)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

▶HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。

▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶登録手続

はじめに	p2
1. ラップ療法に伴うスキントラブルの対処	p3
2. 肛門周囲のびらん	p4
3. 乾燥肌, 角化のひどい皮膚	p5
4. 腋窩や乳房下の難治性の湿疹	p6
5. 手や足のひび割れ	p8
6. 湿疹に対するラップ療法	p9
7. 帯状疱疹	p10
8. 口唇部の潰瘍, びらん	p11
9. クリティカル・コロナイゼーション創 (クリコロ創) への対処	p12
10. 胃ろうの過剰肉芽やスキントラブル	p13
11. スキンテア	p14
12. 褥瘡に対する不適切なゲーベン [®] クリームの使用	p15
まとめ	p16

▶HTML 版を読む

日本医事新報社では、Web オリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

はじめに

高齢者を診る医療スタッフは、おむつかぶれなどのスキントラブル、潰瘍、びらん等のケアに悩むことが多々あると思われる。

種々の教科書には、使用される軟膏や被覆材などが羅列されているものの、どのような治療経過で治っていくのか、各論というものがほとんど記載されていない。

一方、皮膚科的スキントラブルはいわゆる創傷治癒理論に基づいた治療法が応用できるものがあり、著者はその考えを持って対処している。

創傷治癒理論とは、簡単に言えば、壊死組織を除去し、適度な湿潤環境下で良性的肉芽組織を増生させて、創の縮小～上皮化を促すための方法論である。

本稿では、著者の行っている局所のケア方法を、具体的にビジュアルにお示しする。

臨床の一助として頂ければ幸いである。

1. ラップ療法に伴うスキントラブルの対処 (図1)

台所の三角コーナーの水切りポリ袋を、創にあててケアするのがラップ療法である。ラップ療法によって創を適度な湿潤状態に保つことができ、その効果は市販の創傷被覆材と同等であることが証明されている¹⁾。

ラップ療法の合併症として、創からの過剰な滲出液が皮膚に付着して生じるスキントラブルがある。対策は、ラップ療法を中止し、吸水性に富む被覆材(メロリン[®]、モイスキンパッド[®]、紙おむつなど)に変更して、抗真菌薬を使用すればよい。



a

a. 仙骨部褥瘡にラップ療法を行っていたところ、創周囲に紅斑が生じた。検鏡で真菌(+)。



b

b. ラップ療法は中止し、抗真菌薬を塗布して紙おむつのじか当てとした。



c

c. 1週間後。スキントラブルは軽減している。紙おむつは吸水性に富む、よい素材である。



d

d. 2週間後。湿疹は改善し、創も縮小している。

図1 ラップ療法に伴うスキントラブル

2. 肛門周囲のびらん(図2)

下痢で生じる肛門部のびらは、患者に苦痛を与える、辛い病変である。これに対しては、皮膚を乾燥させる作用がある亜鉛華軟膏とステロイド軟膏の合剤、および粉状創傷被覆材(バリケア®パウダー)を使用することで比較的、短期間に治癒させることができる。

もちろん下痢への内科的治療も考慮するのは当然である。



a. 下痢を原因として肛門周囲に発症したかぶれ、びらん。強い痛みあり。



b. 亜鉛華軟膏+ステロイド軟膏(2:1)の合剤を塗布。



c. さらにバリケア®パウダーを塗布。



d. 2週間後:びらはきれいに治癒。

図2 肛門のかぶれ、びらん